

キャンドルサービス

山形市少年自然の家

1. 活動概要

燭台にゆらめく炎を見つめ、これまでの活動を静かに振り返ります。一つの炎が次々に分火され、大きな炎の輪になった時の神秘的な感動を味わうことができ、忘れられない思い出として心に残る活動です。

ねらい： 炎を見つめながら活動の成果を確かめ、仲間との団結をより強固なものにし、友情を育てる。

- 2. 活動場所** 本館・・・体育館、食堂 板橋沼キャンプ場・・・屋根付広場 荒沼キャンプ場・・・大テント
※本館食堂で行う場合は、カップろうそくを使用してもらいます。

- 3. 所要時間** 各団体の設定による

4. 準備

《自然の家》 燭台(中央に置くもの/個人用) ・ 燭台の下に敷くシート ・ ワイヤレスアンブレ
ろうそく大・小(実費) ・ 営火長(1着)と火の禰宜用(2着)衣装 ・ 点火用ライター

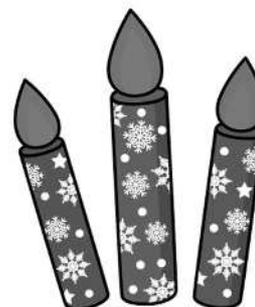
《各団体》 出し物等で使用するBGM など

- 5. 費用** ろうそく大(点火用)・・・70円 ろうそく小(手持ち用)・・・10円
カップろうそく(食堂用)・・・10円

6. 活動内容

(1) 役割

- ・ 営火長・・・全員を代表する人 「営火長のことば」を担当する・・・1名
- ・ 司会者・・・プログラムの進行をする ……1～2名
- ・ 火の禰宜・・・ろうそくを持って入場する際、営火長を先導・・・1～2名
- ・ 班長・・・点火の際、班を代表して「誓いの言葉」を担当 ……全班長
- ・ 営火係・・・燭台の火を消すなど、司会者のサポート ……若干名



(2) プログラム (実践例)

順序	内容	ろうそくの動き	備考	
第1部	集 合	司会者はキャンドルサービスの流れを説明する。	1部と3部は儀式なので、私語は慎むようにする	
	入 場	静かに燭台を一周して所定の位置へ。	燭台を囲み円陣	
	夜の歌	静かな歌を歌う。		
	営火長入場	禰宜がろうそくを持って営火長を先導する。	会場外で禰宜のろうそくに点火。営火長には点火せずに入場	円の内側を一周して所定の位置(北の方角)に
	営火長の話	開会の言葉の後、火に関する話を感慨を込め手短かに。		禰宜は営火長を照らす
	分 火	禰宜が営火長のろうそくに点火後、営火長は各班長のろうそくに分火する。	禰宜は営火長に点火	ろうが落ちないように注意する
	誓いの言葉	班長は班の代表として団結の誓いをする。	班長は燭台に点火	短くはつきりと
	心の歌	静かな、心に響くような歌を歌う。		
第2部	出し物	グループ毎に出し物をする。出し物を必ず最後まで見るようにする。 ヤジを入れないようにする。	禰宜、営火長、班長の火は消す	司会者は盛り上がるように配慮する
第3部	静かな歌	静かな雰囲気のある歌を歌い、心を静める。	個人用のろうそく・燭台を渡す	
		営火係は、燭台の火を消す(1本残す)。		
	夜 話	営火長による言葉(心の糧となるようなもの)。		
	キャンドルサービス	班長は営火長より分火してもらう。	禰宜は燭台の火で点火し営火長へ点火	私語は慎む
		班長はろうそくをかかげ各班へ帰り、右まわりに点火していく。		
	終わりの言葉	司会者は感謝と別れの挨拶を述べる。		
	別れの歌	「シャロム」(など) 斉唱 → ハミング		
	営火長退場	火の禰宜、営火長は会場を一周して退場。		
	消 火	右まわりにひとりずつ自分のろうそくを消す。最後に大きなろうそくを班長が消す。		私語は慎む
	退 場	会場が暗くなり、退場をうながす。		思いを込めて退場

7. 実施上の留意点

- ・ろうそくは各団体に準備することもできます。
- ・「出し物」は、全員が参加して楽しむことができるようにしましょう。
- ・室内の床にろうが落ちると、滑りやすくなり危険です。体育館用具室にある厚手のシート(薄い黄色シート)を敷いて活動を実施してください。
- ・後片付けをしっかりと行いましょう。
- ・他団体と合同で行うこともできます。

